

## 2022 J3 ■順位表 ■第1節

勝点、得失点差、得点、失点、  
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	藤枝	3p	+3	3	0	
2	長野	3p	+2	2	0	
	宮崎	3p	+2	2	0	
4	松本	3p	+1	2	1	
	富山	3p	+1	2	1	
6	福島	3p	+1	1	0	
	相模原	3p	+1	1	0	
8	いわき	1p	0	1	1	
	鹿児島	1p	0	1	1	
10	YS横浜	1p	0	0	0	A△
	岐阜	1p	0	0	0	--- ---
12	讃岐	0p	-1	1	2	
	愛媛	0p	-1	1	2	
14	沼津	0p	-1	0	1	
	今治	0p	-1	0	1	
16	八戸	0p	-2	0	2	
	北九州	0p	-2	0	2	
18	鳥取	0p	-3	0	3	

## 次回HomeGame

第4節 vs. ガイナーレ鳥取

4/3 (日) 18:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしやいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

## today's guest : 愛媛FC

2021 J2 7勝14分21敗 勝ち点35:20位

直近の対決と結果	ここ3試合の公式戦の結果	
2019/10/20 J2 - 37節@長良川	FC岐阜	愛媛FC
岐阜 2-0 愛媛 當間建文,川西翔太 scored.	2022/03/12 J3 - 1節@ニッパツ YS横浜 0-0 岐阜	2022/03/13 J3 - 1節@ニスタ 愛媛 1-2 富山
	2021/12/05 J3 - 30節@えがお S 熊本 2-0 岐阜	2021/12/05 J2 - 42節@ニスタ 愛媛 1-1 山口
	2021/11/28 J3 - 29節@長良川 岐阜 0-0 藤枝	2021/11/28 J2 - 41節@K s スタ 水戸 2-1 愛媛

●今年もまた、僕らの街にJリーグが帰ってくる。そして我らがFC岐阜は、3年目のJ3リーグ戦を戦うことになる。

J3に降格した初年度そして2年目の昨季も、『J3優勝・J2復帰』を目標に掲げて戦ったFC岐阜だが、最終順位はいずれも6位。昨季は、東京五輪の中断期間を2位で折り返したにも関わらず、後半戦で大きく失速してしまった。“3度目の正直”となる今季は、昨季途中からチーム統括本部長に就いていた三浦俊也氏が監督に就任し、フロントもチームも体制を大幅に刷新。そしてJ1経験者や昨季のJ3で注目された選手など多くの選手を補強し、現時点で登録選手33名という大所帯で全18チーム・全34節の2022シーズンJ3リーグを戦うFC岐阜。ストリークでは大いに注目され“J3版銀河系軍団”などと呼ばれたりもしたが、当然ながらサッカーは所属選手の知名度で勝敗を決するような競技ではない。今季のJ3リーグは4チームが降格してきて、チーム数も15から18に増えているため、昨年よりも厳しい戦いを強いられるだろう。J2と比べればチーム数が少ないため、そこまでの過密日程とはならないが、それでも昨季と比べれば試合数が多く、また中断期間も無いため、真夏の岐阜・猛暑下での試合が開催されることになる。また、今季もコロナ感染防止対策や「みなし開催」制度が継続適用されていることにも注意する必要があるだろう。そして何より、我々は昨季6位、18チームで“8番目の挑戦者”だという自覚を持たなければならない。今季も厳しいシーズンになることを覚悟しつつ、しかし目の前の1試合の勝利に全力を尽くして、勝ち続けることで最後には目標を達成して欲しい。

今シーズンの開幕戦は3/12(土)アウェイ・YS横浜戦。引いて守りカウンター狙いのYS横浜に対して、積極的に仕掛けてシュートを狙う岐阜だったが、相手ゴール前でのプレー精度や選手の連携が上手くいかず、得点を奪うことができない。何度も惜しい場面を作りながら結局、ゴールネットは揺らすことはできず、今季も開幕戦はスコアレスドローに終わった。とりあえず、アウェイでの開幕戦で勝ち点1を得られたという意味では辛うじて及第点だが、得点が奪えなかったという点では不満が残る。今節こそ、しっかりと今季初ゴールを挙げ、そして今季初勝利を、このホーム長良川で掴み取って欲しい。

さて、ホーム開幕戦となる今節の対戦相手は愛媛FC。昨季はJ2で20位で降格、今季は8年ぶりに復帰した石丸清隆監督が就任し、また選手を大幅に入れ替えて1年でのJ2復帰を目指すチームだ。つまり、我々にとってはホーム開幕戦から“上位チームとの対戦”であり、非常に重要な試合となる。愛媛はホームでの開幕戦で富山と対戦し、1-2で逆転負け。したがって、愛媛は今節こそ初勝利を掴もうと激しく攻撃してくることが予想されるが、我々もホームで初勝利を上げるために絶対に勝たなくてはならない試合だ。まだ第2節だが、両チームの激しい攻防が見られることになるだろう。

J3では初対戦となる愛媛。J2での通算対戦成績は、FC岐阜が8勝10分8敗・28得点33失点。ホーム戦では6勝5分3敗・22得点20失点と勝ち越しているが、ただしこれは2019年までの戦績で、あまり当てにはならない。愛媛で警戒すべき選手には、まずは#11近藤貴司を挙げる。このスピードスターに岐阜は何度もゴールを奪われている。そして開幕戦で先制点を挙げた#6佐々木匠も要注意だ。また、注目すべき選手はやはり#46森脇良太だろう。岐阜の#42柏木陽介や#30宇賀神友弥、#10庄司悦大ともチームメイトだった元日本代表選手、特にポジション的に#30宇賀神とのマッチアップは注目だ。

昨季の開幕時よりは行動制限が緩和されたが、今季もまた、コロナ感染防止対策が徹底される中での開幕戦となる。その中でも僕たちFC岐阜サポーターは、可能な範囲の限りで戦う選手たちの後押しをしよう。引き続き声を出しての応援は禁止されているが、ゲーフラの掲出や、旗やタオルを振ることでスタジアムを緑に染め、大きな拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。試合後には社会的距離を保ちながら、選手たちと勝利の喜びを分かち合おう。そしてJ参入15年目の今季こそ、みんなで最後に笑い合えるシーズンにしよう。さあ、待ちに待った2022年・J3リーグのホーム開幕戦だ。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第1節】YS横浜0-0岐阜

●現状オミクロンが治まったと言えるような状況には思えません。アウェイの観客の観戦NGも出ていませんでしたので、2022シーズンの開幕戦であるYSCC戦に参戦しました。開場時間から大分遅れた12時半過ぎにスタジアムに到着してスタンドに入ってみるとアウェイ側の観客席には既に沢山の岐阜サポが居て感無量。この日の入場者数は2,152人とこの事でしたが、半分以上が岐阜側の観客じゃなかったですかね？それくらいに岐阜サポとしては気合が入った試合だったと思います。

試合の展開について。試合開始直後から積極的に前でボールがチェイス出来ていると思ったし、クロスボールを上げたりミドルからも積極的にシュートを狙っていったりして、比較的優位に試合を進めれていたように思います。でもなにせゴールが奪えない。逆に自陣でのミスからあわや失点！と天を仰ぎ見るシーンもあり、正直ドキドキもの。結局両チームとも点を奪えずにスコアレスドローで試合終了となりました。

万全な体制でJ2復帰を成し遂げる！にしては肩透かしを食らった気もするし、監督が交代してのシーズン初戦なのでまだまだチームが習熟されていないのかな？との気持ちもあるし、帰り道では色んな気持ちが入り混じった感覚でした。こんな気持ちで今シーズンも過ごしていくのでしょうか？

第2節は愛媛を迎えてのホーム開幕戦。私自身としては2年半ぶりのホーム参戦となる予定です。スカッとした気分で帰れるような試合結果を切に願います。(ヤックル)

●開幕前の情報が乏しく、どんなメンバーがスタメンを張るのか、予想もできなかった2022シーズンの開幕戦。システムはやはり三浦監督お得意の4バックで。

まず驚きだったのが、山内寛史の右サイドバックでの起用。船津徹也や藤谷匠など本職を差し置いての起用だっただけに、どのくらいやれるものかと不安半分期待半分で見えていたが、守備はそこそこやれていたし、機を見て攻撃にも参加し、畑潤基らとの連携でシュートも放つなど、いい仕事ぶりだった。スピードのあるサイドアタッカーと対峙した時の対応が今後どうなるかといったところであろうか。

次の驚きはボランチの一角に入った庄司悦大。良くも悪くも王様のイメージが強かった庄司だけど、守備で頑張って身体張っていたなという印象。やはり守備も頑張らないとレギュラーを張ることはできないと本人も期するところはあるのだろう。もちろん守備だけでなく、DFライン近くまで下りてきて、前線へ精度の高いロングボールを供給するのとか見ると、ああやっぱり庄司だなあと(笑)。

次に驚いたのはヘニキ。あれだけ相手ゴール近くでボールに絡むとは思わなかった(笑)。CKからポスト直撃の惜しいヘディングシュートもあったし。ただ前半だけで下げられたのは望外に前目に行き過ぎたせいであろうか。

そして後半からそのヘニキと代わって入った山内彰。Jリーグデビュー戦ではあったけれど、落ち着きのあるプレーで、しっかりボールを収めて配球するというプレーぶりが目に付いたかな。

ンドカチャールス、昨年以上に化ける予感。波に乗ったら二桁ゴールもあるかも。後半途中から入った窪田稜。スピードに乗ったドリブルで度々チャンスを出した。彼を今年レンタル延長できたのは本当に大きいかもしれない。

逆に気になったのは田中順也。ちょっと身体のキレもないような感じだったし、まだチームにフィットしきれてないのかも。

ゲームは残念ながらスコアレスドロー、初戦だからこんなものなのかもというのと、期待値が高すぎたのかもという複雑な思い……。何はともあれ今年も迎えたホーム開幕戦。決して楽な相手ではない愛媛ではあるけれど、勝利で弾みをつけて波に乗りたいたいものである。(岐阜の誇り)

●J1・J2から遅れること3週間、遂に開幕するJ3。いやー、開幕直前が一番ワクワクしますね！開幕スタメンの予想とかシーズンの皮算用とか、ずっと開幕が来なけりゃ良いのにとか、つい思っちゃいますよね？(苦笑)。そんなワクワクした岐阜サポたちが多数詰めかけた開幕戦。さてスタメンは…えっ、3バック？と最初は思ったのだけど、#9山内寛史を右SBにコンバートしての4バック？そして#42 柏木陽介がベンチ外！？そしてスタメン9人が新加入や復帰選手！？……と、サプライズ感たっぷり(笑)。

さて試合は、基本的にYS横浜が引いて守ってカウンター狙いで、岐阜がボールを保持する展開。昨季まで岐阜のヘッドコーチを務めていた“守備の人”仲田建二監督らしいというか。岐阜の派手な(苦笑)攻撃陣を警戒しての対策としては、これから他のチームも真似してくるかもしれない。この守備ブロックを打ち崩さないといけない岐阜なんだけど、まだ選手の距離感や連携がこなれていないと言うべきか、コンディションが上がっていないと言うべきか、ゴールを奪うことができない。#5ヘニキや#45 ンドカ・チャールスのポストに嫌われた惜しいシュートもあり、あと少しの雰囲気もしていたのだけど、残念ながらゴールネットを揺らすまでには至らなかった。15本もシュート撃ったんだけどなあ……。

一方の守備は、もちろん(昨季の主力選手が流出している)YS横浜が相手ということもあり、かなり安定していたように見えた。それと……昨季と違って「とりあえず前に蹴り出しとけ」的な、後方からの全く繋がらないボールが激減したのが、個人的にはストレスを大幅に減らしました(苦笑)。三浦監督はかなり守備的な戦術を好むと聞いていたんだけど、この試合はそうでも無かったような…このメンバーだと戦術を変えろということなのかしら？そうそう、#27 本石捺& #32 山内彰の両選手、J初出場おめでとう！

個人的な感想としては、まあ開幕戦では仕方ないかなあ的な、ギリギリ及第点の試合内容だったかなと思う。だけど、今季のJ3優勝を狙うチームを自負しているのだったら、こんな試合を続けていてはダメだ。少なくとも、ちゃんと得点を取れる試合にしないとダメだ。その辺りは選手たちも充分に認識しているようで、挨拶に来た時の表情が実に不満そうだった。まあ攻撃陣について言えば、勝てなかったら(機能しなかったら)総入れ替えもあり得る豪華なメンツが揃ってる(苦笑)なので、そういう危機意識も持たせられているのかもしれないと思う。とりあえずアウェイで勝ち点1。ならば、ホームでは勝ち点3は必達だ。どのように修正してホーム開幕戦を迎えるのか、三浦監督の采配や、選手たちの奮起に期待します！そして、今季こそは『ホームでは絶対に勝つ』を実践してください！(ささたく)

●2022シーズンの元日は横浜。今季は、3年ぶりにアウェイでの開幕戦。三ツ沢もそれくらいかな？と思ったら、やっぱり、前回は2019の3月だった。アウェイで始めると最終節がホームになる(場合が多い)。どちらかという、最終節をホームでやる方が好きかな。そして、車での遠征も3年ぶり。いろんな『久しぶり』が重なって、道中はドキドキ。途中で見た、こちらも「お久しぶり！」の富士山に「落ち着け……」と諭された気がした。

久しぶりのニッパツで驚いたのが待機列。ホーム側ゴール裏とそれ以外という2つしか入場口がなかったのも、メインのお客さんも一緒に並んでいたとはいえ、エライこと緑が豊かだったよ。みんなの気持ちがストレートに伝わってきてゾクゾクしたな。この試合のチケット【アウェイA席】はゴール裏だけでなく、メインも含まれていた。せつかく、メイン入場口から入ったんだし、こんな機会は滅多にないからと、三ツ沢で初めてのメインから観戦。

結果はスコアレス・ドロー。残念だったけど、妥当な結果かな？それにしても、YSさんには、いつも、苦い思いをさせられてばかりのような気がするよ(苦笑)。監督が代わっても、スタイルを変えない姿勢にも好感が持てます。ホント、いいチー

ムですね。次節のホーム戦は全力で応援します(笑)。仲田さんもガンバッテね。

で、ウチについての感想。率直に言う。「久しぶりに楽しめそうなシーズンになりそう。」かな？少なくとも、昨季やその前みたいな閉塞感はなかった。クロスも上がってたし、流れの中で3人、4人とゴール前に進入してくるサッカーにはワクワクさせられるね。このチームの指揮官は、本当にアノ三浦さんなのか？ひと昔、と称される『10年』という区切りと海外経験を経て、『全てに新しい三浦さん』になったのかな。若干、両CBともスピード不足に感じたのはボクだけかしらん？YSのFWに裏を取られた場面が二、三度あった気がした。あとは、TJが動いてなかったこと。彼とウガは、まだ、アガってない感じがしたね。これから……なのか、それとも、コレだからウチに……なのか。もちろん、前者だと信じたい。精度やフィジカル、コンビネーションは徐々に上げていってくれるよね。フレイレのミドルは、そのうち一本や二本決まりそうだな。その瞬間が待ち遠しくて仕方ない。

それにしても、スタメン&サブメン見た時のワケのわからなさといったら、もう。自分がどんな顔をしてたのか、見たかった(苦笑)。FW何人いるんだよ？桐畑と両CB以外ポジションが読めなかった。ひょっとしたら3バックなのか？4バックにしないミウミウなんてあり得るのか？と。よかった、ちゃんとミウミウで。中でもヒロフミのSB起用にはビックリだ。前半に見せた、切り込んでのシュートはさすがFW。守備もできてたし、スローインもいい。万能型？のSB。今後の成長が楽しみだ。シュートは全部で15本。CKも含めて、1点は取りたい、取らなきゃ……な試合でもあった。ただ、ほとんどのシュートが枠外で、枠内はGKの正面か、蹴り損ない。今日イチのチャールスのはポスト。当てる方が難しいだろうに(苦笑)。

それから、ヘニキヘッドも惜しかったね。ポジションはどこなんだい？と思わせるような自由さは相変わらずだ(笑)ただ、そのあたりがハーフタイムで交替となった要因かもね。しかし、代わって出場したアキラくん。リョーヘイを使わず、大卒ルーキーの起用にもビックリ。しっかり、リズムとタメを作って、安定したパスを供給出来てたんじゃないか？上々の初出場だったと思います。同じく初出場の本石くんもデビューおめでとう。でも、キミってDFじゃなかったっけ？

結局、開幕戦だというのに、キャプテンと3人の副キャプテンのうち、遠征したのはベンチを含めても新加入外国人のフレイレだけ。ホーム開幕の愛媛戦に温存なのかな？

そんな人選にもかかわらず、交替で菊池大介が出てくるとか、やっぱり、今季のウチはおかしい。キレてたなあ、大介。あと、リョウも。そして、何より、守備をする庄司悦大。しかも、カラダを張ってのボール奪取とか。なんというか、もう、開幕戦一試合見ただけでお腹いっぱいです。長良川が楽しみだ。願わくば、好天に恵まれますように……。 (ぐん、)

●もう「慣れた」というか「慣らされた」というか。」3に落ちて3年目の開幕戦もスコアレスドロー。でも、前年の開幕戦があまりにも凄惨な印象だったせいか、試合後の周囲の反応はかなりポジティブだった。たしかに、「ここ」から上がっていくとするなら、「ここ」の位置取りとしては悪くないのかもしれない。

登録メンバーを視て「3バックだああああああ？」と震えあがった(笑)けれど、やはり三浦監督らしく、山内寛を右SBに据えての4-4-2。あーよかった(笑)。

守備のコーディネートはしっかりしていた。かつては中盤深くからの移動パス砲台だった庄司がハンターのごとき守備を見せてくれたし、前半はその庄司を後ろに据えて前で動きたい放題(笑)だったヘニキを下げて(ちょっとフリーダムが過ぎたかな？)、中盤に投入された山内彰は見事なバランスだった。最終ラインでは、フレイレが映画『紅の豚』のコピーのように「強いCBとは、こういうことさ。」というプレーをしっかりと見せてくれた。

懸念は、やはり攻撃面。あれだけのタレントを擁して……という気もしてしまうけれど、そこはYSCCを評価すべきでしょう。「後方守備で引っ掛けてカウンター狙い」と、揶揄するかのような向きもあったけれど、チーム・コンセプトである「走る、寄せる、サボらない」という戦い方は監督が元・岐阜監督の仲田さんになっても変わらなかった。仲田さんは、かつて自分が率いたチームに対して(また『紅の豚』のコピーを借りるけど)「哲学(フィロソフィー)とは、こういうことさ。」と示してくれたのかもしれない。

要するに、この試合ではFC岐阜の「戦力」とYSCCの「戦術理解」「戦術浸透」が、やあやあ尋常にと勝負した結果がスコレスドローだったわけだ。だから、この試合に関しては、納得です。

このFC岐阜の「戦力」に、さらに「戦術理解」「戦術浸透」が上乘せされれば、それはそれは素晴らしいサッカーが出来る上がる、ということになる。それを伝統的に『完成したら面白いサッカー』と呼ぶ……というのは、もう「FC岐阜の基礎知識」みたいなもの、なんだろうね。しかし、ここ数年の経験が染みついた、彫りこまれたぼくには、「完成すれば面白くなる」「いずれ美しくなる」と言われても、もはやそれはポジティブな宣託などではなく、むしろ呪詛にしか聞こえない。だから、チームに求めるのは、「『面白くなる』サッカーを早く完成させてください」ということになる。そうだね、この愛媛戦くらいには。無理ですかね。そんなの到底望めない、完成までに半年近くかかるってのなら、「完成すれば面白くなる」「いずれ美しくなる」サッカーはやっぱり Not In My Back Yard (ウチの裏庭以外で=やるならよそでやってくれ) っていうところになる。(吉田 Casting)

## 今季の岐阜に望むこと。

●いよいよ、2022シーズンが始まりました。今季も、いろんな困難が待ち受けてるコトは想像に難くない。だから、優勝とか昇格は、自分にとっては二の次、三の次。まずは、「無事にシーズンが終わりますように……」というのが一番の望み。もちろん、クラブや選手、スタッフの皆さんには昇格、そして、優勝を目指してほしいと思っています。

とはいえ、そんなボクにも、どうしてもお願いしておきたいことが2つあります。

1つめは、「昨季の8/28のような試合は二度とゴメンだよ！」ということ。兎にも角にも、コレに尽きます。森山さんが加入したころから見始めたので、かれこれ18年になろうとしてるけど、ボクの中では、史上最低最悪の試合だった。今までには、2-8で負けた試合も1-7で負けた試合も0-6もあったし、『夢のスコア』と呼ばれる0-5なんか何回もあったけど、このクラブにつきあってきて、初めて、口にしようになりましたよ。「カネ、返せ！」って。いや、長良川にはいなかったんですけどね。DAZN で見てたんで、視聴料を、ってコトなら言ってもいいんじゃないか？って本気で思いましたとも、ええ。せっかく、知り合いがtwitterで募集してた、試合見ながらの交流会がだだ下がりしてたのが印象深い。トラウマになる勢いでしたね(苦笑)。あるスポーツライター氏の言葉を借りれば『冷たい怒り』。憤怒ですらない感情を覚えたのは初めてでした。

この試合が、そして、この日がいったい、どういう試合だったのか、どういう日だったのか。何が何でも勝たなきゃいけない試合でした。胸スポンサー様のサンクスマッチ。並みいる名門、強豪クラブを抑えて1位に選んでくれたサイトもある、夏季限定ユニフォームのお披露目試合。そして、何より、アノ事故以来、初めて命日と試合が重なったのが昨季の8/28でした。もちろん、勝負事ですから、望んだ結果にはならないことがあるのは承知の上です。しかし、負けるにしたって負け方ってものがあると思います。しかも、相手の福島は、

(のちに回復しましたが) 試合直前に理不尽な裁定で勝ち点を奪われ、その結果、彼らの勝ち点を上回り、昇格圏内に上がったのがウチでした。まなじりを決して乗り込んでくることが容易に想像できた彼らに対し、ウチがきちんと勝って、「ウチが上位になったのは実力だから。」と示さなければいけなかった。それなのに……。似たような状況だった、アウェイ鳥取戦のような試合だったら、結果が出なくても拍手ができたと思うんですけどね。もう、あんな思いをするのはお断り！ですすよ？

2つめ。それは、ファン、サポーターは公平に対応してほしいということです。誤解を生むような物言いでごめんなさい。ボクがそう感じたのは昨季のホーム最終戦後のことでした。試合後のセレモニー。監督やキャプテンの話がなかったことは異例でしたが、今季の結果から見て仕方ないのかな？と思ってきました。それもまた、ウチらしくていいのかな、と。代わり、といったは失礼ですが、知事や後援会長の挨拶があるのもウチらしいじゃないか、と。そもそも、社長の挨拶の後にGMが話すのも異例なのではないでしょうか(笑)。で、問題はその後。恒例の場内一周の際だか、終わった後だかに、前監督がゴール裏からの呼び掛けに応じたか何かで、話をしたのはなぜなのでしょう？そして、まわりは、なぜ、止めなかったんでしょうか？

言いたくなる気持ちは(声をかけた方も、答える方も)わからないでもないけれど、たしか、当時のルールなら、大声を出した観客には、然るべき対応、もしくは処分があってもおかしくないはずですが。それなのに、止めるべき立場の方も、前監督の発言の場に立ち会って聞き入る状況が腑に落ちません。

監督の弁解？弁明は、少なくとも、あの時スタジアムにいたヒト達全員と分かち合うべきではないでしょうか。あるいは、後日、公式に上げるとかのフォローが必要では？有料のマガジンに掲載してありますから、というのは筋が違うような気がしますけどどうでしょう？セレモニーでしゃべらなかったのなら、最後まで口を閉じていてほしかった。それを止めてほしかった。スタジアムのどこにしようとも、いや、現地にいなくとも、クラブに対する愛情に差はありません。

以上は、あくまで、ボク個人の感想です。間違った認識に立つての意見かもしれません。また、この紙面に書くことではないかもしれない。それについてはお詫びします。セレモニー後の出来事に対する感想については、過日、ネットを介しての、とある会で現社長に伝えられそうな状況がありました。ただ、時間も押していたし、会合の主旨とは外れるような気もしたので発言はしませんでした。社長は時間には無頓着な感じで、もっと話したそうにも見えませんでしたので、いずれ、機会があったら、直接伝えて、忌憚のない意見を伺えたらな、と思っています。その時には、苦笑交じりにでも笑って話せるような状況になっていることを願っています。

ところで、このオフにクラブが【FC岐阜ドリームイレブン】を企画し、投票で選ばれた11人が発表されましたね。いずれの選手にも思い出も思い入れもあるんだが、一人だけ腑に落ちない選手がいた。柏木陽介です。彼は、昨季にそれほどのパフォーマンスをしたのかな？というのが率直な気持ちです。もちろん、ピッチ外での彼の行動、岐阜についての発信や想いについては感謝と敬意しかありません。でも、それが『ベストイレブン』に繋がるのは違うんじゃないか？と思ってしまふのです。しかしながら、そんな風に考えるボクの方がマイノリティだったということなんじゃないかな。ということで、ボクの今季のイチ推しは『柏木陽介選手』です(笑)。これは、自分の勝手な思い込み、そうであってほしいという妄想ですけど、今回の選出には柏木選手も「ナゼ？」と思っているんじゃないか、と。「オレのパフォーマンスはあんなもんじゃない。」そう、考えていてもらいたい。そのうえで「今季の、これからの柏木陽介を楽しみにしててください！」と言ってもらいたい。次回の、20年目のベストイレブン企画があるのかは

わからないけれど、その時には真っ先に投票したくなるような、投票せざるを得なくなるような活躍を期待したい。今回のベストイレブン選出は前渡し。そう、思いたくなるようなプレーを心待ちにしています。

それにしても……。ホーム開幕戦を迎えるというのに、なんてヒネクレたことばかり書いてるんだろなあ。性分だから、仕方ないのか。まあ、こんな意見があってもいいですよ？ホーム開幕だというのにネガティブな内容で申し訳ありません。それでも、冒頭に書いたように、今季の無事終了と、選手の健闘、そして、クラブの目標が達成されることを祈ります。ボクもできる限り、現地に足を運び、クラブで精一杯応援します！(ぐん、)